

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 7 月 11 日 (2019.7.11)

【公表番号】特表 2018-521700 (P2018-521700A)

【公表日】平成 30 年 8 月 9 日 (2018.8.9)

【年通号数】公開・登録公報 2018-030

【出願番号】特願 2017-555781 (P2017-555781)

【国際特許分類】

A 6 1 C 8/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 C 8/00 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 6 月 10 日 (2019.6.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

インプラントであることが好ましい歯科用部材 (2) のための、近位端 (11)、遠位端 (12) 及び、力及びトルクの付与を可能にするべく前記遠位端 (12) を前記歯科用部材に連結するための連結機構 (20) を備える配置装置 (1) であって、前記連結機構が、

長手方向軸 (A1) を有し、前記歯科用部材に係合するために、前記配置装置 (1) に対してその長手方向軸 (A1) に沿って移動可能である少なくとも 1 つの可動ピン (21) と、

前記配置装置 (1) の前記遠位端において前記歯科用部材に係合するための、長手方向軸 (A2) を有する少なくとも 1 つの係合部 (28) であって、前記係合部 (28) の前記長手方向軸 (A2) が前記可動ピン (21) の前記長手方向軸 (A1) に対して角度 ( ) で配置される前記係合部と、

を含む、配置装置 (1)。

【請求項 2】

前記係合部 (28) が前記配置装置 (1) の長手方向軸 (A3) に沿って整合する、請求項 1 に記載の配置装置 (1)。

【請求項 3】

引込み位置と係合位置との間で前記可動ピン (21) を移動させるための作動手段 (30) を前記連結機構 (20) がさらに備える、請求項 1 または 2 に記載の配置装置 (1)。

【請求項 4】

前記作動手段 (30) が前記可動ピン (21) に回転を与えるよう適合される、請求項 3 に記載の配置装置 (1)。

【請求項 5】

少なくとも前記可動ピン (21) の引出し及び / または引込みを補助するための駆動機構 (40) を前記作動手段 (30) がさらに備える、請求項 3 または 4 に記載の配置装置 (1)。

【請求項 6】

前記可動ピン (21) の前記長手方向軸 (A1) と前記係合部 (28) の前記長手方向

軸（A 2）との間の前記角度（ ）が、3°から80°の間であり、20°と60°との間であることが好ましく、25°から50°との間であることがさらに好ましい、先行請求項のいずれか1項に記載の配置装置（1）。

【請求項7】

前記可動ピン（21）の前記位置を、その引込み及び／または係合位置においてロックするために配置されるロック機構（50）をさらに備える、先行請求項のいずれか1項に記載の配置装置（1）。

【請求項8】

配置装置（1）に、特に請求項1から7のいずれかに記載の前記配置装置（1）に連結するための歯科用部材であって、前記歯科用部材（2）が前記配置装置（1）の界面を構成する近位端（63）及び遠位端（64）を備え、

それを通して画定される第1の長手方向軸（A 4）を有し、前記配置装置の可動ピンと相互作用するための少なくとも1つの第1の係合部（61）と、

それを通して画定される第2の長手方向軸（A 5）を有し、前記配置装置の係合部と相互作用するための少なくとも1つの第2の係合部（62）と、

を前記界面が備え、

前記第1の長手方向軸（A 4）が前記第2の長手方向軸（A 5）に対して角度（ ）で配置される、

歯科用部材。

【請求項9】

前記第1の係合部（61）が前記第2の係合部（62）内に配置される、請求項8に記載の歯科用部材。

【請求項10】

請求項1から7のいずれかに記載の配置装置（1）及び、請求項8または9に記載の歯科用部材、特にインプラントを備える移植セット。

【請求項11】

配置装置、特に請求項1から8のいずれかに記載の前記配置装置（1）を用いた歯科用部材の取り扱い方法（1）であって、

前記配置装置（1）の遠位端（12）に位置する少なくとも1つの係合部（28）を前記歯科用部材（2）の第2の係合部（62）と係合するための第1の軸に沿って、またはその周囲で前記配置装置（1）を移動させ、

前記配置装置（1）の少なくとも1つの可動ピン（21）を第2の軸に沿って、またはその周囲で、前記歯科用部材の第1の係合部（61）内に挿入するステップを含み、

前記係合部（A 2）の長手方向軸の向きが前記可動ピン（A 1）の長手方向軸の向きと異なる、

方法。

【請求項12】

前記係合部（28）の前記係合が、前記可動ピン（21）の運動を可能にするために前記配置装置（1）のロック機構（50）を分離する、請求項11に記載の方法。

【請求項13】

前記可動ピン（21）の前記挿入及び／または引込みが少なくとも駆動機構（40）によって補助される、請求項11または12に記載の方法。

【請求項14】

前記可動ピン（21）の前記第1の係合部（61）内への前記挿入が、前記可動ピン（21）を引込むために前記駆動機構（40）を付勢する、請求項13に記載の方法。

【請求項15】

好ましくは前記可動ピン（21）を前記第1の係合部（61）から引込むために、前記駆動機構（40）が作動手段（30）によって作動する、請求項13または14に記載の方法。